

Ⅱ. 『展覧会の絵』作曲の経緯

1870年31歳のムソルグスキーは、『ロシア5人組』の理論的な支えになっていた評論家ウラディミール・スタソフの紹介で画家・建築家であるヴィクトル・アレクサンドロヴィチ・ハルトマン（又はガルトマン）と知り合い意気投合します。ハルトマンはペテルブルク美術アカデミーで学び、卒業後、ある図書館建築のデザインで金賞を獲得してポーランド、フランス、イタリアなどを4年間旅し、水彩画や鉛筆画を多数残しました。伝統的なロシアのモチーフを自作にとり入れた最初の美術家の一人とされていますが、当時は無名と言ってもいい存在でした。

しかし、ムソルグスキーと出会ったわずか3年後の1873年、ハルトマンは39歳の若さで世を去ります。動脈瘤による突然の死でした。ムソルグスキーは彼の死の少し前に、いっしょに音楽会に出かけその帰りに急にハルトマンが息苦しくなって壁にもたれかかったのを見ていただけに、その死の知らせはムソルグスキーを大いに打ちのめします。ハルトマンの支援者であったスタソフはその死を悼んで死の翌年に彼の水彩画や建築デザイン、衣装デザインなどの遺作約400点の展覧会を開催し、そこを訪れたムソルグスキーは何かに憑かれたかのようにわずか3週間でピアノ曲『展覧会の絵』を書き上げ、スタソフに献上します。

この曲はムソルグスキーの生前は演奏されることはなく、死後5年たった1886年ようやくリムスキー＝コルサコフによって出版されますが、当時はあまり注目されることはありませんでした。

Ⅲ. 『展覧会の絵』の編曲

ピアニストにはほとんど無視しましたが、不思議なことに多くの作曲家がピアノ版をオーケストレーションすることに取り憑かれてきました。最初にそれを試みたのはリムスキー＝コルサコフの弟子のトゥシュマロフ（1891年）。その後何人かの作曲家によって試みられますが、この曲の名前を決定的に知らせるコンサートの人気プログラムにさせたのがフランスのモーリス・ラヴェルです（1922年）。ラヴェルの後もオーケストレーションの試みは後を絶たず、ロシア的な要素と華麗なオーケストラの響きを追及したストコフスキー、日本の近衛秀麿、ラヴェルが省略したプロムナードを復活させ、しかもラヴェルが下敷きにしたピアノ譜の間違いを正したピアニスト兼指揮者のアシュケナージ、その他ピアノ協奏曲版や室内楽版、各種独奏楽器版など様々なアレンジが登場しています。一方、出版以来ピアニストに見向きもされなかった原曲のピアノ曲ですが、戦後になってようやく見直されるようになり、ロシアのホロヴィッツやソビエトのリヒテルらに取り上げてセンセーショナルな演奏を聴かせると人気も高まり、今日のピアニストにとって極めて重要なレパートリーになっています。以下は代表的な管弦楽編曲版のリストです。

- 1886：ミヒヤエル・トゥシュマロフ（7曲のみ）
- 1915：ヘンリー・ウッド（イギリス、プロムナードは最初の1曲だけ）
- 1922：モーリス・ラヴェル（フランスの作曲家）
- 1922：レオ・フンテク（スロヴェニア出身、フィンランドで活躍した作曲家）
- 1922：ジュゼッペ・ベツツェ（サロン・オーケストラ用、無声映画用の音楽の作曲家）
- 1924：レオニダス・レオナルディ（ロシア生まれのピアニストでラヴェルの弟子）
- 1937：ルシアン・カイエ（フィラデルフィア管弦楽団の団員）
- 1938：レオポルド・ストコフスキー（映画『オーケストラの少女』、『ファンタジア』で有名な指揮者）
- 1942：ワルター・ゴール（ドイツ生まれのイギリスの作曲家、シューンベルクの弟子）
- 1955：セルゲイ・ゴルチャコフ（モスクワ音楽院の教授）
- 1977：ローレンス・レオナード（ピアノ協奏曲版、イギリスの指揮者・作曲家）
- 1982：ウラディミール・アシュケナージ（ソヴィエト出身のピアニスト・指揮者）
- 1992：トーマス・ウィルブランド



ラヴェル



スタソフ



ハルトマン

ムソルグスキー（1865年）

Ⅳ. 『展覧会の絵』～ 曲とハルトマンの絵

曲は、ハルトマンの絵のタイトルがついた10曲の小品とその間に挿入される5つの『プロムナード』（＝散歩、逍遙という意味。旋律は合唱で歌われるロシア民謡から取られたと言われています。）という同一の主題を用いた間奏曲風の短い曲と、タイトルは『プロムナード』とはついていませんが内容的には同様の曲がひとつ、計16曲から構成されています。なお、番号がついているのはハルトマンの絵の10曲だけです。では、ムソルグスキーが観たハルトマンのはどんな絵だったのでしょか。実は、そのうち5曲分6枚については確定されていますが、残りは確定されていません。スタソフが開催したハルトマンの遺作展のカタログに載っていない曲もあり、ムソルグスキーが異なるタイトルをつけたのか、別の機会に観た絵も含まれているのかもしれませんが。以下に、各曲の説明とその曲の元になったハルトマンの絵、及び推測されるハルトマンの絵を紹介します。